

2014.10.4

生誕150年 **ドイツ・ロマン派最後の巨人**
リヒャルト・シュトラウス **第4回**

プログラム

今年、生誕150年を迎えたドイツ・ロマン派最後の巨匠、リヒャルト・シュトラウスの特集を、これまで3回に渡ってお聴きいただいて来ましたが、今日は第4回目、最終回をお送りします。

交響詩「ドン・ファン」はヨーロッパに伝わる伝説的な人物、ドン・ファンの物語をドイツの詩人レーナウが書いた詩に基づいて作曲されましたが、豊かな色彩感と親しみ易い曲想からリヒャルト・シュトラウスの出世作となった名曲です。歌劇「ナクソス島のアリアドネ」は、モリエールの戯曲『町人貴族』の劇中劇として書かれましたが、後にプロローグを加えて改訂され、独立したオペラになりました。小オーケストラによる軽妙な舞台劇という印象の強い異色のオペラです。「祝典前奏曲」は、1913年の10月19日のウィーンのコンツェルトハウス落成式のために作曲された作品で、高らかに鳴り響く金管群、力強いティンパニ、そして壮麗なオルガンが加わり、大オーケストラの醍醐味が味わえる力作です。「家庭交響曲」はシュトラウス自身の家庭生活を描いた作品と言われ、子供の誕生、子供の遊ぶ情景、夫婦の愛の情景や喧嘩、朝のにぎやかな様子など、明るくユーモアに溢れた曲想ながら、大オーケストラによる音の饗宴はシュトラウスの真骨頂とも言える傑作です。マゼールとベルリン・フィルの名演でお聴き下さい。「四つの最後の歌」は、文字どおりシュトラウス最後の歌曲集で、最晩年の1948年、84歳の時に完成しました。多くが自身の死の予感を漂わせるような詩を選んでいますが、自然や生命への惜別を穏やかな優しさで包み込んだ名作、見事なオーケストレーションにも注目してください。描
これを機会に多くのリヒャルト・シュトラウス作品に興味を持たれることを願っています。 壮麗

リヒャルト・シュトラウス (1864~ 1949):

交響詩 “ドン・ファン” op.20

オイゲン・ヨッフム指揮バイエルン放送交響楽団
(1982.2.5 ミュンヘン、ヘルクレスザールでのLive)

歌劇 “ナクソス島のアリアドネ” op.60

第1幕 冒頭/ツェルビネッタのアリア “偉大なる王女さま”

アンナ・トモワ・シントウ (ソプラノ).....アリアドネ

エディタ・グルベローヴァ (ソプラノ).....ツェルビネッタ

ジェームス・キング (テノール).....バカス/ワルター・ベリー (バス).....音楽教師

ヴォルフガング・サヴァリッシュ指揮ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団

(1982.8.6 ザルツブルク祝祭小劇場でのLive)

祝典前奏曲 op.61

ヴォルフガング・サヴァリッシュ指揮フィラデルフィア管弦楽団

(1993.5.18 サントリーホールでのLive)

*** 休憩 ***

リヒャルト・シュトラウス (1864~ 1949):

家庭交響曲 op.53~ 抜粋

ロリン・マゼール指揮ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団

(1988.12.10 ベルリン・フィルハーモニーホールでのLive)

四つの最後の歌

1.春 2.九月 3.眠りにつくとき 4.夕映えのなかで

ルチア・ポップ (ソプラノ)

アンドレ・プレヴィン指揮ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団

(1989.8.29 ザルツブルク、フェルゼンライトシュレーでのLive)